

## 「民」のクローズ アップが面白い

共助研

九州郷づくり共助ネットワーク研究会(共助研)針貝武



紀会長)は1月27日、福岡市のアークビルで中山間地域での建設コンサルタントのかかわり方をテーマにした勉強会を開いた。写真。

今回は、小川全夫熊本学園大学教授を招き、2年の活動での活動で見えてきた課題や今後の組織のあり方などをまとめた「提言」について、小川教授に意見を求めた。

提言では、建設コンサルタントの技術と経験を生かした中山間地域支援の継続と拡大、中山間地域支援活動の評価システムの構築、建設技術者OBの役割創出などを挙げている。

小川教授は、「困っている集落と、社会貢献したいコンサルタントがそれぞれいるのにうまくマッチングせず、活動に展開しないのはなぜか」という問題設定が必要」とし、これらの対応の具体策としてコールセンターなどによるワンストップサービスの実施を提案した。

また、「ニーズを徹底的に引っ張ってくるソーシャルマーケティングの考え方が必要。産学官民の民をどれだけクローズアップするかで取り組みが面白くなる」とし、共助研の今後の活動に期待を示した。